



費句と鏡五子稿

下



俳諧發心今樣五子稿下

秋之部

立秋 初秋 七夕 星合 天川 盃蘭盆

賞盆 盆月 一丁目 初月 塊祭 塊棚

灯笼 高灯笼 踊 地藏祭 稻妻 露

秋風 二丁目 一葉 散柳 木槿 朝日

三丁目 桔梗 女郎花 水葱 蘭 紫苑

芒 四丁目 葛 葛 虫 蛭

竈馬 蜻蛉 秋蟬 蛭 鷹狩 鳴

五日 案山子 砧

八月 月 六丁月 待霄 名月

兩月 七丁目 十六夜 駒迎 朝寒 夜寒

秋夜 秋暮 秋雨 落水 秋山 野菊

鷄頭 荻 八丁目 荻 尾花 花芒

芭蕉 蓼穗 蕃椒 九丁目 初紅葉 初丁

八 百舌鳥 啄木鳥 鳴 歸燕 鹿

十丁目 鰯引 新米 十二丁目 菊 地榆

九月 重陽 后月 十二丁目 菊 地榆

五丁目

散芒 十二丁目 草紅葉 梅紅葉 紅葉 柿

推 推紫 梨 橡 檫 十三丁目

稻 稻川 晚稻 茸狩 崩築 露時雨

星月夜 惜秋 暮秋 行秋 雜 十四丁目

冬之部

十月 神無月 小六月 小春 初時雨 一丁目

霜 風 復花 山茶花 二丁目 石落花

水仙 寒菊 冬木立 木葉 落葉 三丁目

散紅葉 枯野 冬枯 中枯 芒 枯尾花

芭蕉絲 四丁目 茶口切 火拵 走 捐

埋火冬籠 冬構 冬月寒 五丁目

帔衣頭巾 帔衾 千鳥 六丁目 水鳥

鴨 鴛鴦 斥鸚 鷄 網代守 七丁目

生海鼠 河豚 河豚汁

十一月 霜月 冬至 初雪 雪 八丁目

雪吹 雪車 雪佛 電 氷 九丁目

暖鳥 杜夫魚 御火燒 鉢叩

十二月

五子格下目二

師走 冬梅 事始 煤掃 餅筵 歲暮

十丁目 行年 大年 除夜 雜 十一丁目

俛借發句今様五子稿

阿湯 茶幻後菴三志 編

秋の部

立秋

秋さうら戸とさうらうねるまう新

梅室

遠秋のさうらうあやうさの秋

俊也

樹多秋さうらうさうらうの秋

、

瘡さうらうさうらうの秋

奇測

乙草も中うさうらうの秋

、

やうさうらうさうらうの秋

套机

初秋

秋あさや秋さうらうの秋

奇測

五子稿下目三

七夕 十のあゝとむすうううのけし 茶 枕
 星 迎 舞方いゝとあふゝゝゝとせん 茶 枕
 天 川 ぐらゝゝゝと 柳 姑 ぐらゝゝゝと 茶 枕
 孟 兼 盆 ぐらゝゝゝと ぬるぬる 人よあゝゝと 茶 枕
 貫 盆 鈴 法 ぬあゝゝゝと ぐらゝゝゝと 茶 枕
 盆 月 人のあゝゝと ぼろゝゝゝと 門 中 ぐらゝゝゝと 茶 枕
 初 月 初 月 ぐらゝゝゝと ぐらゝゝゝと ぐらゝゝゝと 茶 枕

又下

椽 棚 ぐらゝゝゝと ぬるぬる ぬるぬる ぬるぬる 茶 枕
 灯 籠 田 姑 ぐらゝゝゝと ぬるぬる ぬるぬる ぬるぬる 茶 枕
 踊 ぐらゝゝゝと ぬるぬる ぬるぬる ぬるぬる 茶 枕
 地藏祭 ぐらゝゝゝと ぬるぬる ぬるぬる ぬるぬる 茶 枕
 指 妻 ぐらゝゝゝと ぬるぬる ぬるぬる ぬるぬる 茶 枕
 雲 ぐらゝゝゝと ぬるぬる ぬるぬる ぬるぬる 茶 枕

秋風
 ちみまのや~~~~~
 梳のまの~~~~~
 麻~~~~~
 つ~~~~~
 秋の~~~~~

海月
 梅室
 茶乳
 寒松
 梅室

あまの橋下二

秋風
 ちみまのや~~~~~
 梳のまの~~~~~
 麻~~~~~
 つ~~~~~
 秋の~~~~~

海月
 梅室
 茶乳
 寒松
 梅室

取 柙 柙~~~~~
 後 也

木 槿

うしろ人のむししとつらま槿うしろ

寒松

ぎらぎらとほろほろとつらま槿

蒼朮

とれうのうしろとれま槿も廻り

奇瀨

きあふれもはたしつらま槿

、

朝 顔

あさうりや地まきこのころるき月形水

蒼朮

朝顔うしろとつらま槿も廻り

、

あさうりやまきつらま槿も廻り

寒松

朝顔のやまきつらま槿も廻り

梅

あさうりやまきつらま槿も廻り

、

朝顔の月形水つらま槿も廻り

、

多子稿下三

女 郎 花

あさうりやまきつらま槿も廻り

、

あさうりやまきつらま槿も廻り

、

桔 梗

あさうりやまきつらま槿も廻り

、

あさうりやまきつらま槿も廻り

、

あさうりやまきつらま槿も廻り

、

あさうりやまきつらま槿も廻り

、


~~~~~

何処の~~~~~ 奇劇

水葱 水の~~~~~ 梅室

蘭 葉の~~~~~ 寒松

紫苑 二月りの~~~~~ 梅室

芒 砂際~~~~~ 念仏

~~~~~ 奇劇

~~~~~ 梅室

~~~~~ 菊塙古穢の~~~~~

五子下凡

~~~~~

~~~~~

苜蓿 秋の~~~~~ 奇劇

~~~~~ 奇劇

~~~~~ 梅室

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~





月見

蟹拾ふ人よ退れてくらく那

奇測

おのゝ秋の夕のそよ風

おのゝ秋の夕のそよ風

奇測

山吹のそよ風とちり

原ふんと雲のそよ風

月よ秋の夕のそよ風

奇測

雨

月よ秋の夕のそよ風

奇測

あつた秋の夕のそよ風

奇測

あつた秋の夕のそよ風

奇測

十六夜

あつた秋の夕のそよ風

奇測

下七

駒

あつた秋の夕のそよ風

奇測

朝寒

あつた秋の夕のそよ風

奇測

夜寒

あつた秋の夕のそよ風

奇測

秋夜

あつた秋の夕のそよ風

奇測

おのゝ秋の夕のそよ風

あつた秋の夕のそよ風

秋雨

あつた秋の夕のそよ風

奇測

あつた秋の夕のそよ風

奇測

落水

あつた秋の夕のそよ風

奇測

秋中

あつた秋の夕のそよ風

奇測



何おまてもおどのされささし。さ  
 傘ささささささささささささ  
 ありぬぬのありささささささ  
 芭蕉一あささささささささ  
 蓼穂 ちさささささささささ  
 蕃椒 ささささささささささ  
 角ささささささささささ  
 初紅葉 初お掃の甲をえさささ  
 初 初 初 初 初 初 初 初  
 奇 奇 奇 奇 奇 奇 奇 奇

又子持下ノ九

百舌鳥 赤きさささささささ  
 山科 やさささささささ  
 坊 坊 坊 坊 坊 坊 坊 坊  
 奇 奇 奇 奇 奇 奇 奇 奇







きくのそと後一牧者くことり  
きよのふあー帆と千尺たまふれ  
、 奇劇

修三院の侍者おー

とくやうとく

日のあけきりきりふふおー

地 掬 ちぢふるさつー

散 芒 中の中こく人もあくふあこく

艸紅葉 日くつよう利根まきー

そつ庵の聖像とすつた

梅紅葉 けいせいのくーと流ぬ人あさく

又下十二

紅葉 山の中けいせいのあさく

そつあーむきー

通王摺

きりきりきりきりきりきり

山の中たうたうたうたう

あまのほらけー

あまのほらけー

おととあさく

推 柿 推のまのくー

推 梨

紫

あつたまや秋のつらさを青う

茶乳

七つふの糸くさうら

ほろろあまの露のり

揺りゆく人波も静か

寒松

鈴の音も揺るやう

奇測

ちまの鈴も静もつら

茶乳

うらやまのうらやま

寒松

揺のまじりくられあま

後抄

摺 摺 摺

五巻下十三

稻

刈アう稲刈やゆらぬの

奇測

晚

稲山隠や一を

寒松

茸

狩茸うや乾は

奇測

崩

築板のまを

、

露

時雨扑のまの青を

、

夕ぐれのう

星

月夜冴れ

、

惜

秋秋とつら

寒松

暮

秋秋くま

、

行

秋行秋中

奇測

雜

てくろくすも秋のこころをふこの山 妻を

ふもや軒のほろろあけ秋のこころ

起るくも床のこころあけ秋のこころ

許云百回寄秋のこころ

十もよや十もよやととあけ 奇測

ちののこ海もろくも秋のこころ 参記

一日もくくくくくくくく秋のこころ

又参記下十記

つたふのこころ

くくくくくく秋のこころ

修の院のこころ

はなすくくくくくく秋のこころ

沈猶發句の様五子稿秋之部 終

佛指發句今様五子稿

阿彌 茶幻竹菴三志 編

冬々部

十月十月や何とあら〜〜〜

家松

神無月〜〜〜

後也

控〜〜〜

妻室

小六月小六月あれ〜〜〜

奇測

小春お〜〜〜

う〜〜〜のま〜〜

初時雨

蕨ちりこもえん人もあらず油村の  
 せせりりのおききまら油しんれ  
 ぶらの戸よ小溜きまら油しんれ  
 卯枝の枝やきまら油しんれ  
 角うらきまら油の定らぬ油しんれ  
 しんれやのきまら油しんれ  
 新緑こらまら油の定らぬ油しんれ  
 日の影やうら油しんれ  
 系仲らうのうら油しんれ

奇劇

茶乳

妻室

五子稿下十六

霜

軒もぬやうぬきもしんれうら  
 たちりし青つ烏うらぬれうら  
 猿もやうそのしんれしんれ  
 鹿もきまら油の定らぬ油しんれ  
 甘のやんぬまらしんれ  
 しんれや板のきまら油の定らぬ油しんれ  
 夕しんれ菓としんれ  
 しんれやあつしんれ  
 腎も綱うらしんれ  
 系仲らうのうら油しんれ

奇劇

茶乳

奇劇

風

帰花

山茶花

物音のしるまゝふらふらと

こころの日はまら／＼と

こころのこころを横へり

こころのこころを白く

こころのこころを隣へり

こころのこころをわら／＼

こころのこころをう／＼

こころのこころを枝／＼

こころのこころをふら／＼

こころのこころを味／＼

雲字

奇劇

、

茶乳

梅字

奇劇

、

茶乳

奇劇

石落花

水仙

春菊

冬木立

こころの日は山の中

こころの日は夜も

こころの日は那

こころの日は

こころの日は

こころの日は

こころの日は

こころの日は

こころの日は

こころの日は

寒松

茶乳

奇劇

茶乳

奇劇

茶乳

奇劇

こつせきし後

ふゆのしらあらしのうらみあはるるふゆ

奇測

不葉

ふゆのしらあらしのうらみあはるるふゆ

茶乳

揺るるるるるるるるるるるるるるるるる

妻室

みゆのうらみあはるるるるるるるるるる

こつせきのうらみあはるるるるるるるるるる

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ふゆのしらあらしのうらみあはるるふゆ

奇測

落葉

ふゆのしらあらしのうらみあはるるふゆ

後物

こつせき

又巻下十八

物まのうらみあはるるるるるるるるるる

あはるるるるるるるるるるるるるるるる

奇測

しるるるるるるるるるるるるるるるるる

散紅葉

しるるるるるるるるるるるるるるるるる

寒松

枯野

あはるるるるるるるるるるるるるるるる

茶乳

うらみあはるるるるるるるるるるるるる

夜ふゆのうらみあはるるるるるるるるるる

妻室

あはるるるるるるるるるるるるるるるる

奇測

冬枯

あはるるるるるるるるるるるるるるるる

茶乳

中枯

あはるるるるるるるるるるるるるるるる

奇測

枯 芒 水の熱ものゝすゝねとてふ 奇劇

枯尾花 白粉のふと半とくうくうまろ尾たれ 奇劇

芭蕉忌 大粒のふと半のしゝるれうふ 奇劇

村のふと

揮ふとてふまもあも村のくうくうふ 茶枕

しゝるれとるの橋所もち終うも半 役物

まもあも 杖とむつと半のま

つとちらむとむとてふとてふ

のまもあもはつとてふ

まもあもはつとてふとてふとてふ

茶口切り切りて久振しとる小性う 茶

火 桶 相や桶様うとむとてふとてふ 茶枕

後添ふの日のふや甘や張やとてふ 奇劇

山の日はとてふとてふとてふとてふ 役物

山屋のふとやとてふとてふとてふとてふ

とてふのぬとてふとてふとてふとてふ

埋 火 押やとてふとてふとてふとてふ





あささの夜に今もゆらゆらと  
あささの夜のゆらゆらと  
あささの夜のゆらゆらと

十月二十日大津にて

あささの夜に今もゆらゆらと

あささの夜のゆらゆらと

あささの夜のゆらゆらと

あささの夜のゆらゆらと

あささの夜のゆらゆらと

あささの夜のゆらゆらと

あささの夜のゆらゆらと

五子稿下二

水鳥

あささの夜に今もゆらゆらと  
あささの夜のゆらゆらと  
あささの夜のゆらゆらと

あささの夜のゆらゆらと

あささの夜のゆらゆらと

あささの夜のゆらゆらと

あささの夜のゆらゆらと

あささの夜のゆらゆらと

あささの夜のゆらゆらと

あささの夜のゆらゆらと

あささの夜のゆらゆらと

茶丸

鴨

菖蒲をうらむうらむ中仲し鴨 寄家

うもつて二夜さりし茶風呂 寄例

ちんねす凡ふふふふふふふふ 寄例

鴛鴦 鴛鴦の尻取つてやほあし 茶乳

斤 鷓鴣 鷓鴣の尻取つてやほあし 寄例

龍 山凡のはては月とあしやうん 寄家

綱代守 中々外のおしちちちちちちち 後抄

生海嶺 虎うら中へ投おすちちちちちち 寄例

五子稿下二十二

河豚 飯うらうら魚の尻取つてやほあし 寄家

江豚汁 うらうけし三郎の尻取つてやほあし 寄例

こころねて中へ夜ちちちちちち 寄例

十一月

霜 月をうらうらもてやうらりのとまきあし 寄家

冬 至 ちちちちちちちちちちちちち 寄例

初 雪 ちちちちちちちちちちちちち 寄例



ふらふらのやうなあつたふらふらとて  
おるあつたふらふらとてあつたふら

奇劇

雪吹

ふらふらとてあつたふらふらとてあつたふら

奇劇

雪車

ふらふらとてあつたふらふらとてあつたふら

奇劇

是つら

雪佛

ふらふらとてあつたふらふらとてあつたふら

奇劇

雷

ふらふらとてあつたふらふらとてあつたふら

奇劇

氷

ふらふらとてあつたふらふらとてあつたふら

奇劇

ふらふらとてあつたふらふらとてあつたふら

奇劇

ふらふらとてあつたふらふらとてあつたふら

奇劇

五子格下二十四

鶯つらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

暖鳥

ふらふらとてあつたふらふらとてあつたふら

奇劇

杜夫魚

ふらふらとてあつたふらふらとてあつたふら

奇劇

御火焼

ふらふらとてあつたふらふらとてあつたふら

奇劇

拜叩

ふらふらとてあつたふらふらとてあつたふら

奇劇

ふらふらとてあつたふらふらとてあつたふら

奇劇

ふらふらとてあつたふらふらとてあつたふら

奇劇

師走 かくらゝふあまの目おろし 奇劇

冬梅 かくらゝふあまの目おろし 奇劇

足始 かくらゝふあまの目おろし 奇劇

除掃 かくらゝふあまの目おろし 奇劇

餅 かくらゝふあまの目おろし 奇劇

歳暮 かくらゝふあまの目おろし 奇劇

行年 かくらゝふあまの目おろし 奇劇

大年 かくらゝふあまの目おろし 奇劇

宗夜 かくらゝふあまの目おろし 奇劇

稚

かくらゝふあまの目おろし

かくらゝふあまの目おろし

かくらゝふあまの目おろし 奇劇

五下下二十八

五平味のあひてやうやうはあめ 従也  
宵中二夜日並をさうさうさうさう

五平下二十六

追加

海舟大家一題一句

止月正十二ハの心のつまぬ人井眉  
あやうやまのうらやうあめ長サキの巻松  
五春まきうら人のあイうらやうあめ正  
花春まきうら人のあカうらやうあめ正  
元日カうらやうあめ正  
初霞の風やうらやうあめ正

初馬 アハ 九車 アハ  
 万歳 イ  
 子日 イヨ  
 右菜 カスキ  
 春風 カド  
 春雨 カ  
 春雪 カ

廿七下二十七

春夜 アハ  
 春月 アハ  
 春霞 イ  
 梅 イ  
 春風 カ  
 春雨 カ  
 春雪 カ

魯十



柳 けしきしき 編み物 エド 大物  
椿 彩多 ユニ 登車  
寫 人 ユニ 派左  
秋 登

一 月 ふくも ハ又キ 吟片  
山 笑 ア 遊史  
初 雷 功 エチゴ 芝菜  
董 草 ナニハ女 蓮物

菜 花 菜木 エド 茶分  
狗 肯 エド 湯芸  
獨 活 狗活 ナニハ 軒  
立 筆 イワ 心襟  
松 花 埃 アハ 梅  
初 花 秋 エド 対  
初 撰 ナニハ 南  
糸 櫻 エド 連山



行春 ハハ 越 ト 虎 ゴ

一月 カ 紹人 ゴ

更衣 タ 今括 ト

二月 イ 持已 ト

牡丹 カ 小え ト

杜若 ク 千屋 ト

若 サ 茂桂 キ

卯花 ニ 風也 カ

若葉 ニ 秋水 カ

工規 ニ 小海 カ

布穀 ニ 好水 カ

布穀 ニ 蓼 カ

青鷺 ニ 前 カ

蚊遺 ニ 窟 カ

初松魚ノ科ノ科...

五月ハ...

五月雨ハ...

今年竹ハ...

水鷄ハ...

螢ハ...

六月ハ...

涼ハ...

竹涼ハ...

河水ハ...

白日紅ハ...

扇ハ...

...

御 被 御 二 三 五 白

七 月 十 六 日 申 中 燈 火 三 日 火

五 秋 三 日 秋 燈 火 三 日 火

三 秋 三 日 秋 燈 火 三 日 火

星 台 早 夜 三 日 秋 燈 火 三 日 火

天 川 一 日 秋 燈 火 三 日 火

梶 葉 三 日 秋 燈 火 三 日 火

塊 祭 儀 三 日 秋 燈 火 三 日 火

五 十 二 三 十 二

攝 待 三 日 秋 燈 火 三 日 火

踊 一 日 秋 燈 火 三 日 火

残 暑 三 日 秋 燈 火 三 日 火

白 妻 三 日 秋 燈 火 三 日 火

露 三 日 秋 燈 火 三 日 火

霧 三 日 秋 燈 火 三 日 火

秋 風 三 日 秋 燈 火 三 日 火

一 葉 三 日 秋 燈 火 三 日 火

散 押 三 日 秋 燈 火 三 日 火

木 槿 キキョウ 子 コ 咲 サキ けい ケイ 道 ミチ 一 イチ 二 ニ 三 サン 四 シ 五 ス 六 ロク 七 シチ 八 ハチ 九 ク 十 ジュウ 十一 ジュウイチ 十二 ジュウニ 十三 ジュウサン 十四 ジュウシ 十五 ジュウゴ 十六 ジュウロク 十七 ジュウシチ 十八 ジュウハチ 十九 ジュウク 二十 ジュウジュウ 二十一 ジュウイチ 二十二 ジュウニ 二十三 ジュウサン 二十四 ジュウシ 二十五 ジュウゴ 二十六 ジュウロク 二十七 ジュウシチ 二十八 ジュウハチ 二十九 ジュウク 三十 ジュウジュウ 三十一 ジュウイチ 三十二 ジュウニ 三十三 ジュウサン 三十四 ジュウシ 三十五 ジュウゴ 三十六 ジュウロク 三十七 ジュウシチ 三十八 ジュウハチ 三十九 ジュウク 四十 ジュウジュウ 四十一 ジュウイチ 四十二 ジュウニ 四十三 ジュウサン 四十四 ジュウシ 四十五 ジュウゴ 四十六 ジュウロク 四十七 ジュウシチ 四十八 ジュウハチ 四十九 ジュウク 五十 ジュウジュウ

五五下三十三

葉 月 朧 ウツクシ も モ 山 ヤマ 朧 ウツクシ 人 ヒト 朧 ウツクシ 夜 ヨ 朧 ウツクシ 壺 ヒヤク

月 朧 ウツクシ 夜 ヨ 朧 ウツクシ 壺 ヒヤク

月 待 掃 マツ 朧 ウツクシ 月 ツキ 待 マツ 壺 ヒヤク

待 霄 朧 ウツクシ 壺 ヒヤク

名 月 朧 ウツクシ 壺 ヒヤク

野 菊 川 ノキ 朧 ウツクシ 壺 ヒヤク

壺 ヒヤク 全 曳 ケン

嫁菜花 けりしと葉をよほ知るようめふしれ  
 五月の日の輝るうしとともなきのく  
 裾さつとさつたるのあふ花の目うぬか  
 としとらて後とてあふうと花のう  
 ちかふるさふおくうのくくこさる  
 尾花 しのうち秋さつうく尾なき  
 丁 丁あしとくうとさつと田と括く  
 啄木鳥 さつとあきとさつとさつと日車水  
 鹿 麻さつとさつとさつとさつと山川うぬ  
 鹿のうとたつとさつと夜とさつと  
 公海 玄怪 小洋 海鷗 善種 ぎふ 徳白 墨巢 女 杜林

五下三十九

太心魚 さつとさつとさつとさつとさつと  
 九月 月 月とさつとさつとさつとさつと  
 重陽 さつとさつとさつとさつとさつと  
 後 雛 さつとさつとさつとさつとさつと  
 後 月 通中さつとさつとさつとさつと  
 和 和 さつとさつとさつとさつとさつと  
 初 摺 さつとさつとさつとさつとさつと  
 此 此 角

行秋 ハナニ 夕凌

初冬 ハナニ 初時雨 ハナニ

時雨 ハナニ 指 ハナニ

芭蕉忌 ハナニ 一肖

我講 ハナニ 風 ハナニ

水涸 ハナニ 冬月 ハナニ

千鳥 ハナニ 山茶花 ハナニ

落葉 ハナニ 夕凌

...

...

...







天保三年壬辰十月新刻

心齋橋安土町角  
河内屋儀輔

浪速書肆

同北久宝寺町南入

河内屋源七郎

浪華書舗岡田種玉堂藏版書目

神代卷

全二冊

同 頭書

全二冊

同 正訓

稿本指彦著  
近刻

全三冊

神代紀葦芽

本居大人校正

全三冊

校正古語拾遺

一休庵著

全一冊

古語拾遺言餘鈔

全五冊

古語拾遺ト云ハ神代以後神社祭事等  
古法ヲトリウレナヒレ事ドモヲ記セル  
書ナリ其本書ニウタガハレキモノヲ明辨  
訳叙シテサトシレヲ言餘鈔ト云

天の真柱

全一冊

古語拾遺句解

全二冊

外國ニアリニ天地ノ説ヲ皇國ノ古傳説  
ニ考合セタル書ニテ神代考ト共ニテラレ  
見レバ古学ノ基マタ他ニ出ルナシ

古語の遺示蒙節解

全四冊

冠辭考

賀茂真洲大人著

全十冊

此書ハ和歌の枕詞を和る五十音に  
次第して位敷と

同 續貂

上田秋成大人著

全七冊

冠辭考をこれよりとめりて位敷と加へ

掌中冠辭例

全一冊

右の二書より要語と抜粋して出さ

紫式部日記謗註

壺井義和著

全二冊

此書ハ紫式部の玉國并日記のほろの  
圖とれりしを又のかりし位敷と加へ

枕詞補註

尾崎雅嘉大人著

全二冊

此書ハ枕詞より因ひあはるる書  
もの内より逸辭を引ゆる枕詞を  
はらひてえり出りしはるり  
と妻く位敷とくり

和歌虚詞考

加藤景範

全二冊

増補和歌明題部類

小本

全二冊

同 續

小本

全一冊

増補和歌組題集

合刻小本

全二冊

名所部類考

日本紀の御局考

松の屋大人著

全一冊

紫式部と日本紀の御局といひしを考へ  
之より源氏物語の御局といひしを考へ

紫女七論

安藤為章先生著

全一冊

源氏新釋摠考

賀茂真洲大人著

全一冊

此二書源氏物語の大まことの御局考  
式部の方法は紫式部より考へ玉國  
と出りし位敷と源氏物語より考へ  
よむ人の位敷を位敷と

枕草紙傍註

全十冊

松屋全集

藤沢大入著

全二冊

古今類句

山本春正著

全三十四冊

廿一代集と和ら語集の歌と四句  
目の歌をいへるはるり  
古より探案の全書なり

國意考

賀茂真洲翁著

全一冊

皇國古今の事と考へる  
と考へる海を論破同考  
考へる人考考へる考へる  
考へる考へる考へる

古來風體鈔

全五冊

此書ハ五條三仁後成卿の作りし  
文の考へる考へる考へる考へる  
考へる考へる考へる考へる

おのゝしづか

松の屋藤平大入著

全一冊

月次詠言の消息文やうらなひの  
せうきとぶしにうらうらとまよふ  
よのつらうらうらとまよふ

佐喜艸

右同著

全一冊

あはれとどけの得るはを満ちた  
かきやうはつらけけしきうらうら

消息文例

右同著

全二冊

せうきとどけの得るはを満ちた  
かきやうはつらけけしきうらうら  
あはれとどけの得るはを満ちた  
かきやうはつらけけしきうらうら

萬葉集類聚抄

村上潔夫輯

小本全二冊

萬葉集のしづかをび出して  
地本を歌人傳巻と好歌をもち  
うらうらとまよふ

同 類聚抄

右同撰

全三冊

類聚抄のしづかをび出して  
地本を歌人傳巻と好歌をもち  
うらうらとまよふ

同 二聖集

石津亮澄著

全一冊

万葉集のしづかをび出して  
地本を歌人傳巻と好歌をもち  
うらうらとまよふ

類題名家發句集

全四冊

方丈記流水抄

鴨長明

全二冊

古今俳諧明題集

涼藤子撰

全五冊

俳諧今様發句集

白野鵬輯

小本全二冊

今様の流るるのまよひは八日庵宗匠の秀句  
とくしとくし探ふる四葉の流るるのまよひ

同 二 篇

全二冊

同 三 篇

全二冊

同 四 篇

全二冊

両吟集

梅室八十房  
花屋菴

全二冊

無名抄

鴨長明

全二冊

俳諧累併題櫻苗

花屋菴奇淵撰

全二冊

樗良十部集

全二冊

道彦七部集

全二冊

俳諧花實發句集

長月菴編

全五冊

此集はわが國の二葉の流るるのまよひを  
流るるのまよひとくしとくし探ふる四葉の  
一助とくしとくし探ふる四葉の流るるのまよひ

俳句 心くり喰

全二冊

此書ハ貞徳鬼貫其角鼠雪と初め  
法園了名の宗匠家の發句五千餘  
句ニ題題あり初め句地の又合せ小  
出の所ニ於て多しは小集よりは

同 十家類題集

全五冊

八千唐宗道編輯して故人芭蕉翁以  
初め其角凡るを巻を言水法園  
兼山并因善村ホ十家の發句集あり

同 新十家發句集

全四冊

有らぬして月居茶丸成定兼道長  
并六家園に二撰也士朗ホと世十家乃  
海内傳り伴の發句とらるる也

發句新五子稿

全三冊

此書ハ太神壺村青蓮院兼國文五家  
の發句とらるる也題題ありて兼む

俳諧發句題葉集

全五冊

黃花菴升六著四巻の發句とらるる  
月毎の句と題題あり種の新とい種紙紙  
迷懐送る畫發句と華げ三種及法園  
高名家の句とらるる也

同 近世發句類題集

全四冊

此書ハ尚の法名家の發句とらるる  
ありては四巻といの類題といはれ小  
を世流り發句は風体といはるる  
此書ハ十巻といはるる也

俳諧今樣發句集

八日菴万和輯 全二冊

今時流名家の發句といはれ小百和宗匠の發  
句といはるる也

古文眞寶後集

後崎先生頭書評註 全二冊

同

無点再見

全二冊

古註 大成四書字引

小木 全一冊

四書字引アマアイトイハ古註新註  
ノセシク委シキハ此書ニオヨブモノナシ  
実ニ四書字引ノ大成ナルモノナリ

弁非

春臺先生著 全二冊

此 詩文備門ノ是非ヲ論ジタル書ナリ

俳諧四季併題櫻田

花屋菴奇洲撰 全二冊

日本紀竟宴歌集

全二冊

虞書新志

唐本翻刻 全八冊

隸續

同 全四冊

西漢晉魏ノ間ノ碑碣石經ノタダヒ其外ノ  
鏡鼎類スベテ漢ノ代ノ遺文ヲアツ

五代史

同 全十五冊

潜夫論

同 全五冊

後漢ノ王符著述ニシテソノ時代ノ得失ヲ  
ソレル所ナリスヘテ三十五篇ナリ

和楷正訛

春先生著

全一冊

楷書ノ誤ヲ正スニ坐右ニオキテ探求速ナリ

文論詩論

右同著

全二冊

譯文要訣

全一冊

同 附錄

白石蘭合刻

全一冊

東郊先生文集

全五冊

茶山集

宋 曾幾著

全四冊

此書八南宋陸放翁ノ師茶山曾幾先生ノ詩集式典殿聚珍板ヲ翻刻シ東武柏如亭先生ノ校正ヨクハタル宋詩集ナリ

開口新話

全

批點檀弓

全一冊

西京雜記

全一冊

作文初問

周南先生撰  
南郭先生著訂

全一冊

歷世文章ノ風調古人文趣ノ異同ヲ論シ  
法格ヲ奉テ曉レ易ク又實ニ作文楷梯ノ書也

高士傳

唐本翻刻

全三冊

明詩礎

小本

全一冊

同續

全一冊

松岩山人百絶

譚岐牧麻溪先生著

全一冊

黃葉夕陽村舍詩

管茶山先生著

二編 全四冊

驥齒日記

全一冊

此書八管茶山河崎軒西先生ノ東海道紀行應酬ノ詩集ニシテ附スルニ鵬齋茶山西先生東都日本橋上ニテ邂逅ノ詩アリ其外奇事頗多シ

歸省詩囊

北條霞亭先生著

合刻 全一冊

徽山三觀

名ケテ霞亭二稿ト云

嗟此樵歌

二同著

全一冊

詩學新論

全三冊

近人小詩

栖碧先生

全二冊

管茶山寬齋大窪詩佛池五山柏如亭北條霞亭ノ諸先生ヲハジメ其外名賢詩アマタアリ求メテ四方ノ英傑ヲ知リノマフベシ

風牀小詩

備中風牀上ノ著作  
讚岐栖碧山人撰

全一冊

刪補衆方規矩

北山先生著

全四冊

熊志

熊膽製方真偽明辨函解

全一冊

腫脹要訣

全一冊

内撰

宇田玄隨先生著

全十八冊

此書ハ和蘭傳來内治方ノ醫書ニシテ和漢古今ノ醫書ニモ載セザル妙論奇方ヲ多ク含メテ本數書ヲ翻譯スル所ナリ和蘭醫書ノマタアリトイヘバ多クハ外科ノ書ノミニシテ内治ノ醫書ヲ上梓スル此書ヲ以テ原始トスベシ實ニ古今未發ノ珍書ナリ此書ニ據テ奇方ヲモトメ療治ヲホドコストキハ如何ナル疾病タリトイヘバ回生起死ノ術ヲホドコスベシ

蘭畹摘芳

仙臺大觀先生著

全一冊

此書ハ和蘭ノ本草ニシテ本邦ニ用フモノノ品草木生類スベテ生真ニテハ得ガタキモノヲ寫クセシクシ麝香榔櫚ノ類種ノメヅニシキ品類ニ寫生ニ因テアラハシ和漢ノ諸説ヲ承テ明辨シタル言ニシテ醫家物産家ハモトヨリ珍奇好事家画家等ニ載シテ大ニ益アリ本草類書アマタアリトイヘバ此書ノゴトキハ真物ヲミルニヒトシキ古今未曾有ノ善本ナリ

金匱妙藥選

全一冊

唐本百八十品ノ内ヨリ速功アル妙藥秘方ヲエラヒ素人ニテモ療治ヲ得ル方アマタ出ス

脚氣方論

村菴先生撰

全三冊

凡カフノ諸症甚多シ鹿工漫ニ治ラテ人命ヲ愆テ先生深ク歎キ年来心ヲ用ヒ病原ヲ明ニ見テ治驗ヲ速ニ得ルヲ辨シタル救世ノ書ナリ

内科刺血篇

全一冊

醫斷

吉益先生著

全一冊

醫事惑問

右同著

全二冊

此書ハ病疾ヨリテ醫ヲ求メ服薬スルノ心得醫ノ醫業ヲ知ルコトヲ論シ平假名ニテサトシタル人家重宝ノ書ナリ此書ヲ見テ後醫ヲ求ムルトキハスミヤカニ治ヲ得ベシ

物類品彙

全六冊

此書ハ平賀鳩溪先生ノ著述ニシテ草木金石水土穀果虫魚鳥獸等ノ真偽ヲ辨シ漢土産物寫生ノ圖アリ附録ニ人參培養法砂糖製造ノ圖解マテクハシクアラハシ其外物産家ノ骨戀ノ事トモノアマタセシサクレタル書ニシテ東都諸先生ノ技合實ニ物産ノ書ニオイトテ是ニナラフモノナシ

易道撥亂

春臺先生著

全一冊

同辨

太宰東邦先生著

全一冊

易略

春臺先生著

全一冊

斷易早合点

全三冊

此書ハ諸ノ占法ニ益アルモノヲトリ初心トイヘドモ知リヤスク覺エヨキクニ書トリ書物ヲモタズシテ周易ヲ知ルノ極意ヲシルス



經世錄

師

漢百年先生著 全七冊

先生諺解數部アリ大ニ世ニ行ハレテ  
人之貴宝ナル所タリ今刺ストコロノ  
易經ハ只意義ヲ發明スルノミナラス  
ト筮ヲ作ス人モ此ニ就テ字ニバ大ニ  
判断ノ助トナルカナドキ第一ノ秘冊也

大雅堂畫法

全三冊

梅道人墨竹譜

全一冊

霞亭涉筆

北條子讓著

全一冊

此書ハ種々ノ異聞嘉話ヲ集録シタ筆記也

論語筆解

唐韓愈著

全一冊

和漢年代覽要

懷中本  
文政再板

年号ノ目安ヲ小口ニ出シ操出スニ至  
ク和漢ヲ互見シ年表事實ヲ委ク記ス

近江國大繪圖

一鋪

播磨國大繪圖

一鋪

攝津國大繪圖

一鋪

右圖各神社佛閣名所旧跡山川古  
城郡村宿次御城下陣屋道法方角  
往還舟路名物産物等微細ニ記シ  
タル大繪圖ナリコノ圖ヲ熟覽シテ  
以テ旅行セバワノ心ザストコロ村老ヲ  
マタズレテ遠ナリ

美人帖

廣澤先生書

全一冊

烏石成肅公碑

楷書大字石搨

全一冊

菖蒲賀

尊圓親王御真筆  
詩歌御手本

全一冊

尊圓庭訓往來

全一冊

此書ハ世小叔板りしと云ふも大伴  
仍去多し予カ藤板の形ハハ  
筆と云ハレハ書終りハ世  
上  
筆板の形ハハ

大橋俚語千字文

明浦先生

全二冊

無幻春霞帖

石搨

全一冊

浅瀬の志

松屋大人作

全一冊

俗ニハナクシテハ  
1はくろくろくわろくろくろくろく  
あろくろくろくろくろくろくろく  
かろくろくろくろくろくろくろく

當流字盡小謠

頭書 全一冊  
商賣往來入

心齋橋通安土町角

大坂書林

河内屋儀助

消閑雜記

一時軒惟中隨筆  
八日菴萬和宗匠閱

全部二冊

朽を随筆に書數多しと云ふは作者の好むに  
かゝるに諸家に在りてあるに今此書は諸秋連傳文  
章經學佛學雜記といふ序に在りて有益の事説と輯  
録し解しがく知るが如くは序に在りては  
いと宜し法君子有徳情識の名とほりて是れ也

心齋橋通安土町角

浪華書房 河内屋儀輔

